

# 君とチャレンジ ～障害のある人の社会参加支援プロジェクト～

教育・研究

課外活動

ボランティア

地域交流

代表者：人文学部社会科学科 3年 首藤 沙姫

## 連携先

社会福祉法人くれよん・くれよん工房、社会福祉法人愛信会・指定障がい者支援施設幸の実園、社会福祉法人実誠会・障害者支援施設なるみ園、社会福祉法人茨城県社会福祉事業団・茨城県立あすなろの郷、NPO法人茨城の「専攻科」を考える会・福祉型専攻科シャントイツクバ、有限会社ココ・ファーム・ワイナリー、ATTAKA障害者自立支援プロジェクト

## 顧問教員

土屋 和子（人文学部・講師）

## 参加者

高野 文佳（人文学部社会科学科 4年）  
箕輪 美紅（人文学部社会科学科 4年）  
會田 和樹（人文学部社会科学科 3年）  
柏村悠太郎（人文学部社会科学科 3年）  
佐藤 映理（人文学部社会科学科 3年）  
首藤 沙姫（人文学部社会科学科 3年）  
陣野 紗希（人文学部社会科学科 3年）  
荒井 茄月（人文学部社会科学科 2年）  
荒木 亮多（人文学部社会科学科 2年）  
高崎 美優（人文学部社会科学科 2年）  
中桐俊太郎（人文学部社会科学科 2年）  
藤枝 光輝（人文学部社会科学科 2年）  
舟橋 友樹（人文学部社会科学科 2年）

## プロジェクトの概要

### ●プロジェクト立ち上げの背景

本プロジェクトは平成24年度から開始された「障害のある人への就労支援プロジェクト～地域と障害のある人とのつながりをつくる～」を発展させたプロジェクトである。

昨年度までに、私たちは「障害者雇用促進の環境づくり」を目的とし、「障害者雇用の実態発信」と「障害のある人への理解の場の提供」という2つのアプローチから活動した。

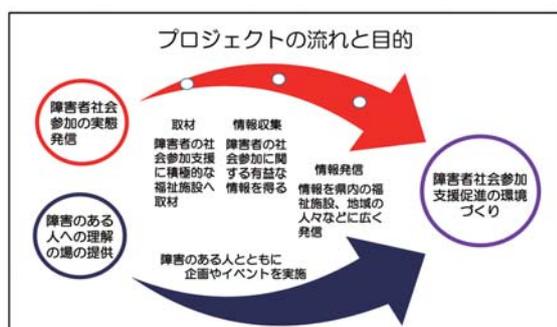
「障害者雇用の実態発信」では、インタビュー動画を5本制作・公開し、障害者の家族や茨城大学の学生を対象に、学習交流会や勉強会の開催を計6回行った。「障害のある人への理解の場の提供」では、障害のある人とその家族との懇談会や茨苑祭での共同出店、福祉施設利用者との交流といった、障害のある人との共同企画を実施した。また、企業経営者に対するプレゼンや、外部のプロジェクトとの連携にも取り組んだ。その結果、障害のある人・家族、福祉施設、障害者団体、行政、企業、経営者、地域住民、学生と出会い、交流することができ、障害のある人の就労を支える人々のネットワークの拡大や、プロジェクトの時間的規模の拡大を実感することができた。

しかし一方では、障害のある人や福祉施設の職員、企業の人事担当者のお話から、「就労継続支援から抜け出せない」「就労してもできる仕事に限られる」など、障害のある人にとって就労をめぐる課題がいくつもあるこ

とがわかった。その課題をなくすためには、地域の人々が障害者との共生社会への理解を深める必要があり、障害者のある人の社会参加についての情報発信が必要だと感じた。そこで、障害のある人の就労支援を広く捉え直そうと、プロジェクト名を「君とチャレンジ～障害のある人の社会参加支援プロジェクト～」へと変更した。

## ●目的

今年度は対象を企業に限らず、積極的に利用者の社会参加支援を行っている様々な障害者福祉施設取材し、得た情報もとにパネルや動画を制作・公開することで「障害のある人の社会参加の実態発信」を行った。また、障害のある人とともに企画やイベントを実施し、地域の人々と障害のある人が直接交流できる機会をつくることで「障害のある人への理解の場の提供」を行った。これら2つのアプローチから活動を行うことで、障害のある人の社会参加のための環境づくり促進を目指した。



## ●プロジェクトの活動内容

今年度は障害のある人の社会参加促進のための環境づくりを目標に3つの活動を行った。

1. 茨城県内および近郊で障害者の社会参加に力を入れている障害者福祉施設取材し

た。就労継続支援施設であるくれよん工房、幸の実園、なるみ園取材し、パネルとインタビュー動画を制作した。完成したパネルと動画を茨苑祭で公開した。就労支援以外の社会参加支援を行う施設であるシャンティつくば、あすなろの郷、ココ・ファーム・ワイナリー取材した。

2. 茨苑祭でくれよん工房と共同企画を行った。利用者と一緒に、くれよん工房で作った菓子類と小物類を販売した。
3. ATTAKA障害者自立支援プロジェクトに参加した。同プロジェクト主催のみとちゃん朝市へのボランティア参加も継続して行った。みとちゃん朝市の一周年を記念してパンフレットを作成した。

## ●活動日程

1. 障害者福祉施設の取材
  - ①くれよん工房  
8月10日、9月20日
  - ②幸の実園  
9月15日、11月2日
  - ③なるみ園  
9月21日、10月17日
  - ④シャンティつくば  
8月26日
  - ⑤あすなろの郷  
1月18日
  - ⑥ココ・ファーム・ワイナリー  
2月13日
2. 障害のある人との共同企画  
茨苑祭  
11月12日、13日

### 3. ATTAKA障害者自立支援プロジェクト

#### ①運営会議(月1回)

7～11月、2月

#### ②みとちゃん朝市(毎週日曜日)

7～12月、2月

※鳥インフルエンザにより一時活動停止

定例会(12～1月)、みとちゃん朝市(2月)

### ●連携先の紹介

#### (1) くれよん工房

社会福祉法人くれよんが運営する、茨城県水戸市にある障害者支援施設。くれよん工房設立の目的は、「障害が有っても無くても共に楽しく生きる」という理念を実現することにある。作業場は、障害のある人達だけの働く場ではなく、障害のある人もない人も共に力を合わせて働き、働くことによって社会参加する「共に生きる場」を目指している。

#### (2) 幸の実園

社会福祉法人愛信会が運営する、茨城県那珂郡東海村にある指定障がい者支援施設。利用者が家庭的な雰囲気の中でゆとりのある暮らしを実践しながら、社会参加の機会を多くもち、地域の人々とのかかわり合いの中で潤いある人生が過ごせるように支援している。毎月第1第3土曜日に敷地内にて「さちのみ朝市」を開催しており、とれたての野菜などを利用者が直接販売している。

#### (3) なるみ園

社会福祉法人実誠会が運営する、茨城県那珂市にある障害者支援施設。平成14年8月1日に開所した。知的障害のある方々が、共同生活や農作業などを通して様々な支援を受け、社会参加を目指している。直売所「サンファームなるみ」を営業しており、利用者が商品の選別・袋詰めなどの就労訓練を行っている。

#### (4) シャンティつくば

福祉型専攻科シャンティつくばは、NPO法人茨城の専攻科を考える会が障害者総合支援法に基づく自立訓練（生活訓練）事業を行うために開設した。自立した地域生活を営むことができるように、必要な生活能力の維持・向上などの支援をしている。韓国の特別支援学校に訪問・報告を行う等、国際交流を行っている。



教室の様子

#### (5) あすなろの郷

茨城県水戸市内原にある指定障害者支援施設及び病院、医療型障害児入所施設・療養介護事業所。一人ひとりの人権を尊重し、利用者の日常生活上の援助や日中活動を支援するとともに、生活自立に向けた総合的なサービスを提供している。また、利用者の能力に合わせて日常生活における買い物などを実施している。

#### (6) ココ・ファーム・ワイナリー

栃木県足利市にある有限会社。隣接する障害者支援施設ころみ学園から原材料であるブドウを仕入れワインに加工している。ころみ学園の利用者は、就労支援ではなく生活介護の一部として「仕事」と呼ばれる生活訓練を行っている。



見学の様子

(7) ATTAKA障害者自立支援プロジェクト  
水戸市内12の企業経営者が立ち上げ、2015年11月より活動を開始しているプロジェクト。後援には水戸市をはじめ、水戸商工会議所等が、共済には水戸保健福祉部障害者福祉課等が携わり、官と民の連携がなされている。「障害者と共存できる水戸」をイベントを通してPRし、地域の活性化を目指している。イベントの運営を障害者に任せ、朝市等を実施している。

#### ●連携の方法

私たちは連携先として様々な障害のある人、障害者雇用・障害者福祉に取り組む、特徴ある企業や福祉施設を取り上げたいと考えているが、対象者の選定の際はプライバシーの保護、人権擁護などについて、様々な配慮が求められる。そのため、地域連携先の専門的助言を得ながら活動している。

#### プロジェクトの成果報告

##### ●プロジェクト活動の実施内容と成果

今年度は、様々な種類の施設と新たに連携をはじめ、「障害のある人の社会参加の実態発信」「障害のある人への理解の場の提供」

という2つのアプローチから活動を行うことで、障害のある人の社会参加のための環境づくりを促進した。また、来年度に向けて、就労支援に限らずに障害のある人の社会参加に取り組んでいる施設を訪問することで、連携先が多様化し本プロジェクトの活動の幅も広がった。成果は以下の3点である。

#### 1. 障害者福祉施設の取材、パネル・インタビュー動画の制作・公開

##### 1) 実施内容

障害のある人の社会参加活動の存在を地域の人々に周知することを目的として、利用者の社会参加に力を入れる県内の障害者就労継続支援施設である幸の実園となるみ園を取材した。この2つの施設はどちらも農業に力を入れており、生産物を独自に朝市や直売所等で販売している。また、その販売に利用者が直接従事することで地域住民との交流を深めている。取材をもとに、施設の情報や利用者の社会参加についてまとめたパネルを制作し、茨苑祭で公開した。

障害のある人の社会参加に関するインタビュー動画の制作にあたって、障害者就労継続支援施設であるくれよん工房を取材した。くれよん工房を取材した理由は、障害者就労継続支援施設の運営の実情を知るためと、「障害のある人もない人もともに力を合わせて働き、働くことで社会参加する」というくれよん工房の考えが自分たちの活動と一致したためである。計2回訪問し、施設内の見学と経営者の方に対するインタビュー動画の撮影を行った。インタビュー動画は茨苑祭で公開した。

また、障害のある人の社会参加の幅の広さを地域の人々に周知することを目的として、就労支援以外の社会参加支援を行う施設である、シャンティつくば、あすなろの郷、ココ・ファーム・ワイナリーを取材した。



取材の様子



インタビューの様子

## 2) 成果

障害者就労継続支援施設を取材し、障害のある人の社会参加の実態について発信するためのパネルやインタビュー動画を制作することができた。

茨苑祭でのパネルの公開により、来場者の方々に、障害のある人が販売に携わって直接地域の人々と関わっていることや、障害のある人と直接交流できる場が身近にあることを知るきっかけを作ることができた。

取材した施設の方からは、「若い人たちが障害者福祉に興味を持ってくれてうれしい」といったコメントをいただいた。

本プロジェクト立ち上げ以降継続して行っているインタビュー動画の制作を、今年度はくれよん工房にご協力いただき行うことができた。茨苑祭での動画の公開により、障害者就労継続支援施設の運営の実態を伝えることができた。

障害者就労継続支援施設についての情報を

広く発信するために、今後はプロジェクトのホームページ上でも公開を予定し、現在準備を進めている。

また、シャンティつくば、あすなろの郷、ココ・ファーム・ワイナリーを取材し、障害のある人の社会参加が利用者の能力に合わせて、日常生活における買い物などの小さなものから国際交流という大きなものまで多岐にわたるという事実をつかむことができた。この情報も今後発信予定である。



パネル展示の様子

## 2. 障害のある人との共同企画

### 1) 実施内容

11月の茨苑祭で水戸市にある障害者就労継続支援施設くれよん工房と、お菓子・雑貨の販売をするお店を共同で出店した。当日は、くれよん工房で実際に販売しているお菓子や雑貨を、くれよん工房の利用者と協力して販売した。

また、くれよん工房からお借りしたパネルや、自分たちが取材した障害者就労継続支援施設である幸の実園、なるみ園を紹介するパネルや写真、本プロジェクト活動を紹介するパネルを公開した。

さらに、くれよん工房のインタビュー動画を公開した。

## 2) 成果

2日間の来場者数は昨年度の約2倍の615名で、13万9000円の売り上げがあった。くれよん工房のインタビュー動画を公開したことで、障害者就労継続支援施設を運営するということの実情を発信することができた。

また、くれよん工房、幸の実園、なるみ園のパネルや写真を公開したことによって、それぞれの施設の情報を発信することができた。

来場者からは「今度は、お店に行ってみよう」というコメントが多数あり、お店の周知につながった。「障害のある人の就労について、社会人は知らない人がまだまだたくさんいると思います。皆さんの活動がもっと広まってほしい。」「大学祭という地域住民に開かれた場で、障害のある人への理解を深めることができるのは、良いことだと思う」といったコメントもいただいた。

茨苑祭という多くの方に開かれた場で障害者就労継続支援施設についての情報を学生や地域の方々に向けて発信することができた。また、障害のある人と共に販売を行ったことによって、多くの方が実際に障害のある人と接する機会を作ることができた。



販売の様子

## 3. ATTAKA障害者自立支援プロジェクトへの継続的参加とイベントの開催

### 1) 実施内容

ATTAKA障害者自立支援プロジェクトと連携し、「みとちゃん朝市」の開催を行った。私たちは、月に1回行われる運営会議に参加し、朝市の準備の段階から携わり、学生ならではの発想や視点からイベント内容について提案をしている。また、毎週日曜日に開催される朝市当日のスタッフとしても参加している。

ATTAKA障害者自立支援プロジェクトの活動が1周年を迎えたことを記念し、「みとちゃん朝市」についてのパンフレットを作成した。ATTAKA障害者自立支援プロジェクトに携わる方々に協力してもらい、コメントや朝市の楽しみ方など様々な内容に仕上げた。

「みとちゃん朝市」の活動内容は、毎週日曜日の午前7時半から10時半に千波湖周辺にて、主に海産物や野菜の販売、朝市食堂での朝食の販売、ビンゴ大会などを障害のある人とともにしている。



朝市の様子



朝市チラシ

## 2) 成果

ATTAKA障害者自立支援プロジェクトの活動に継続して参加したことを通して、本プロジェクトとの深い関係を築くことができた。また、私たちはATTAKA障害者自立支援プロジェクトの活動が1周年を迎えたことを記念し、「みとちゃん朝市」について広く周知するためのパンフレットを作成した。このパンフレットは、今後、水戸市内の小中学校に配布する予定である。

この活動はこれからも継続していく企画の一つであり、今後も学生ならではの発想や視点から、ATTAKA障害者自立支援プロジェクトを盛り上げていきたい。



朝市パンフレット表紙

## ●今後の展望

今年度は、障害者の就労支援から社会参加支援へと活動方針を転換した始まりの年であり、様々な障害者福祉施設を訪問することで新たに連携先が多様化し、プロジェクト活動の幅を広げることができた。

また、12月の「茨城大学学生地域活動発表会2016〈はばたく！茨大生〉」では、関彰商事や茨城県庁など、本プロジェクトに興味をもっていただける企業や団体から声をかけていただき、来年度に向けたつながりを作ることができた。

お声がけいただいた関彰商事では、障害者が接客などの仕事をするのが難しいということを知った。今後はこのような現状について一緒に考える機会を設けるため、イベント開催などを企画していきたいと考えている。